



2008年2月20日

マスコミ関係者各位

## 明治学院チャペル（礼拝堂）修復工事完了

～築90年以上の歴史、今も白金に生き続ける文化遺産を更に未来へと継承します～

2006年4月より2年をかけた明治学院白金校地にあるチャペル修復工事が完了しました。

当チャペルは1989（平成元）年東京都港区「有形文化財」、2002（平成14）年には港区「景観上重要な歴史的建造物」に指定された、英国ゴシック様式を基調とし、煉瓦壁、ハーフトインバーの妻壁意匠に特色をみる歴史ある礼拝堂です。

今回の修復工事では、チャペルの持つ文化的価値を高めることを基本理念として、老朽化等により今後継続使用に問題を生じる部材及び設備機能の更新や耐震補強に加え、講壇廻りや2階オルガンギャラリ、階段なども過去の痕跡や古写真、古図面による史料調査から創建当時の姿へと忠実に復原されました。

1903（明治36）年建築のミラー記念礼拝堂が度重なる地震により使用不能となり、その後使用していたサンダム館の講堂が1914（大正3）年に火災焼失し礼拝場所を失ったため、急遽建築計画を進め1916（大正5）年3月に当チャペルが完成されました。設計は建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリスで、彼自身の教会堂建築の作例としても、また我が国におけるオープン・ルーフの教会堂の例としても、建築史上極めて重要な位置を占めています。創建以降この建物は幾多の改変を経てきましたが、今回は特に、オリジナルの意匠、構造を尊重した文化遺産継承という意識に基づき、歴史的に貴重なもの、再利用出来るものは全て再利用し、従来の材料や施工方法を踏襲して慎重に復原作業を進めました。

明治学院チャペルは、90年以上の歴史を伝え、現在も社会の中で生き、その機能を果たし続けている貴重な文化遺産です。明治学院は、先人より引き継いだこの貴重な文化遺産を更に未来へと継承してまいります。

- 礼拝堂修復工事献堂式 2月29日（金） 13:30～14:40（於 明治学院白金校地 礼拝堂）  
※一般参加不可。献堂式終了後、15:00～ 祝賀会。（於 白金パレットゾーン）

<祝辞> 東京大学大学院教授 鈴木博之（すずきひろゆき）氏

<報告> 大阪芸術大学教授 山形政昭（やまがたまさあき）氏

「設計者ヴォーリスと明治学院礼拝堂について」

文化財建造物保存技術協会 修復設計課主任 前堀勝紀（まえぼりかつのり）氏

「修復工事について」

■ 取材のお問合せは…

明治学院大学 広報室 担当者：石井・齊藤

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

Tel:03-5421-5165（直通） Fax:03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <http://www.meijigakuin.ac.jp>